

新規事業採択時評価結果（平成20年度新規事業化箇所）

担当課：道路局 国道・防災課

担当課長名：深澤 淳志

事業の概要

事業名	一般国道9号 静岡・仁摩道路	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 中国地方整備局
起終点	自：島根県大田市静岡町 至：島根県大田市仁摩町大田	延長	7.9 km		
<p><b>事業概要</b></p> <p>一般国道9号は、京都市から下関市に至る延長約690kmの主要幹線道路であり、周辺地域の社会基盤整備を担う重要な路線である。</p> <p>静岡・仁摩道路は、一般国道9号の交通隘路区間の回避及び交通安全の確保を目的に計画された島根県大田市静岡町から大田市仁摩町大田に至る延長7.9kmの自動車専用道路である。</p> <p><b>事業の目的、必要性</b></p> <p>一般国道9号は島根県の東西を連絡する唯一の主要幹線道路であるが、当該区間の現道は、国際コンテナ通行不能トンネルが2箇所も存在し、また、平面線形、縦断線形の悪い区間が連続しており、死傷事故が多発している状況となっている。更に、一般国道9号の代替路線がなく、交通事故や災害等の発生により、日常生活はもとより、地域の経済活動に多大な支障をきたしている。</p> <p>このような状況を踏まえ、静岡・仁摩道路の整備により、交通障害の回避や安全で信頼性の高い道路網を構築し、救急医療の向上及び生活圏域間の連携を促進するものである。</p>					
全体事業費	220億円	計画交通量	16,200台/日		
<p><b>事業概要図</b></p>					

事業評価結果

費用対便益	B/C	2.2	総費用：176億円 （事業費：163億円 維持管理費：13億円）	総便益：385億円 （走行時間短縮便益：284億円 走行経費減少便益：72億円 交通事故減少便益：29億円）	基準年 平成20年
	感度分析の結果	交通量変動	B/C= 1.9 (交通量 -10%)	B/C= 2.5 (交通量 +10%)	
		事業費変動	B/C= 2.4 (事業費 -10%)	B/C= 2.0 (事業費 +10%)	
	事業期間変動	B/C= 2.3 (事業期間 -20%)	B/C= 2.0 (事業期間 +20%)		
事業の影響	評価項目		評価	根拠	
	自動車や歩行者への影響	渋滞対策	-	注目すべき影響はない。	
		事故対策	○	当路線の死傷事故の減少が見込まれる。 【死傷事故率】仁摩地区付近 75.4件/億台キロ 島根県平均：44.6件/億台キロ 【事故率曲線】 島根県内における死傷事故率上位1割に含まれる。	
		歩行空間	-	注目すべき影響はない。	
	社会全体への影響	住民生活	○	大田市から浜田市の三次医療施設「浜田医療センター」への時間短縮 (大田市立病院から浜田医療センターの所要時間69分⇒53分 16分短縮)	
		地域経済	○	農水産品の流通の利便性向上 (大田市和江港(かれい・シイラ等)から大都市圏へ時間短縮に寄与する；和江港～江津IC間の所要時間37分⇒32分 5分短縮)	
		災害	○	災害や交通事故による通行止めに伴う大幅な迂回移動が回避される (大田市から(旧)仁摩町までの現況時間迂回率1.73)	
環境		○	現道部の交通量が静岡・仁摩道路に転換することで、夜間騒音レベルが軽減される (現況夜間騒音レベル70dB⇒56dB)		
	地域社会	○	石見銀山遺跡(世界遺産)へのアクセス向上 (出雲空港から石見銀山遺跡までの所要時間64分⇒58分 6分短縮)		
事業実施環境	○	島根県総合発展計画(H20.3策定)において優先施策に位置付けられている事業である。			

関係する地方公共団体等の意見

大田市長など3市4町の首長で構成される出雲・江津間高規格幹線道路建設促進期成同盟など複数の団体から要望されている。  
また、計画内容に関して島根県知事のご意見を改めて伺った結果、異存ない旨の回答を頂いている。

事業採択の前提条件

費用便益：便益が費用を上回っている。  
環境影響評価を経て、都市計画決定済(H18.3.14)であり、円滑な事業執行の状況が整っている。

採択の理由

費用便益比が2.2と、便益が費用を上回っているとともに、都市計画決定されていることから、事業採択の前提条件が確認できる。  
また、事故対策、代替路の確保及び、三次医療施設への時間短縮等、事業の必要性・社会全体への効果は高いと判断できる。  
以上より、本事業を採択した。

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。